

# ご参考Ⅳ：当社の商品提案の歴史

時代の動き

独立志向・核家族化

少子高齢化社会

共働き世帯の増加

融合志向・少人数家族の集合


1975 1987 1988 1992 1998 2003 2005 2010 2012 2013 2014 2015

ヘーベルハウスの主な二世帯住宅

二世帯住宅  
発表  
40周年

<p>1975年</p> <p>外階段を設けた完全分離二世帯住宅「二世帯シリーズ」発売</p> 	<p>1987年</p> <p>オモテ分離家事分離/オモテ分離家事融合の提案「DUO」/「DUET」発売</p> 	<p>1988年</p> <p>3階建てのメリットと世帯間の距離に着目「FREX 3D」発売</p> 	<p>1992年</p> <p>建設者・建築研究所との共同研究に基づく「長寿社会対応」モデル住宅「建設」</p> 	<p>1998年</p> <p>ホームエレベーターで親世帯を日当たりのいい上階に「Paren II」発売</p> 	<p>2003年</p> <p>中庭を挟んでつながる連棟二世帯住宅「CoCo」発売</p> 	<p>2005年</p> <p>今と将来の家族の変化に備える二世帯プランニング「ロングライフ二世帯住宅」発売</p> 	<p>2010年</p> <p>孫共有ゾーニング——イコイの空間提案「i_co_i」発売</p> 	<p>2012年</p> <p>二世帯住宅ノウハウの集大成「&amp;NiCO」発売</p> 	<p>2012年</p> <p>親世帯と子世帯と兄弟姉妹も暮らす、新しい二世帯住宅「2.5世帯住宅」発売</p> 	<p>2013年</p> <p>実家が持っている価値を上手に活かした二世帯住宅「都市の実家」発売</p> 	<p>2014年</p> <p>親世帯、子世帯それぞれの視点から二世帯住宅という選択を考えてみるカタログ「親本」「子本」制作</p> 
--	--	--	--	--	---	---	--	--	--	--	--

## 旭化成における二世帯住宅の主な研究開発成果

<p>1975年 (昭和50年)</p> <p>二世帯住宅発表</p> <p>新しい親子同居の住まいの形として、昭和48年より研究を続けていた二世帯住宅を商品発表。キッチンを2つ有する同居住宅を二世帯住宅と定義し、最もわかりやすい分離型のかたちとして外階段タイプに特化して商品化を行った。</p> 	<p>1979年 (昭和54年)</p> <p>4タイプ展開</p> <p>二世帯居住に関する調査などにより、様々な二世帯の暮らしに対応するための住まいを4タイプに分類整理し、商品化を行った。</p> <p>外階段タイプ 内階段タイプ 連棟タイプ 共用タイプ</p>	<p>1980年 (昭和55年)</p> <p>二世帯住宅研究所設立</p> <p>累計5万棟を超える二世帯住宅のストックを中心に家族構成の変化やプランの分析、アンケート調査や訪問調査といった研究活動を行い、その成果を調査報告書や学会、さらには出版やカタログなどにより発表しています。</p>	<p>1987年 (昭和62年)</p> <p>DUO/DUET息子娘で提案を変える</p> <p>「DUOのコンセプト」 家庭文化の担い手である女性が新たに加わる息子夫婦同居は、「オモテ分離・家事分離」、女性が主導権を握る家事面での自立を重視することが、より快適な暮らしにつながる。</p> <p>「DUETのコンセプト」 社会文化の担い手である男性が家族に仲間入りする娘夫婦同居は、「オモテ分離・家事分離」、社会と接する場面で子世帯主人の対外的な独立性を尊重しながら、家の内部では母と娘が家事協力しやすい配慮をするのがポイント。 ●当商品は、昭和62年日経優秀製品サービス賞優秀賞を受賞。</p>	<p>1992年 (平成4年)</p> <p>AICS元気なうちから加齢配慮の提案</p> <p>建設者建築研究所と、長寿社会における住まいの在り方について共同研究を実施。その結果の一つとして「長寿社会対応」建設住宅設計指針(案)に基づいたモデル住宅を建設・発表した。急速に進展しつつある高齢化社会に対応できる限り自立した生活が営める二世帯住宅を提案。</p>	<p>2005年 (平成17年)</p> <p>ロングライフ二世帯 両世帯間で仕切り位置を変えていく提案</p> <p>経年による家族と暮らしの変化に対応して大きく3つのステージを想定したもの、どのステージにも対応できるプランニングとすることが特徴です。</p> <p>日常分離 加齢対応 賃貸活用</p>	<p>2007年 (平成19年)</p> <p>親子同居多様化の実態 融合二世帯の提案</p> <p>片親同居、少人数同居、老夫婦同居といった同居スタイルは現状でも多く、高齢単身世帯が増え続け、そのような状況があるとの傾向はさらに強まると思われる。それに伴い融合思考の親子同居の数も増え、より満足度の高い「融合二世帯」という同居スタイルが増加・定着していくのではないかと発表。</p>	<p>2010年 (平成22年)</p> <p>i_co_i 孫共有の提案</p> <p>新・二世帯住宅「i_co_i」は田舎世代とそのゾニア世代をターゲットとし、「孫共有」をキーワードに孫のスペースを親世帯に近づけることで、共働き子世帯が留守の間の親世帯と孫との関係を深める提案。</p>	<p>2012年 (平成24年)</p> <p>同居の先の「集居」の提案</p> <p>近年の晩婚化・非婚化・離婚率の上昇などから、親世帯に単身の子が同居しているケースが2割近く存在することが判明。単身の兄弟姉妹も共に暮らすからこそ得られる豊かな生活を提案。</p>	<p>2013年 (平成25年)</p> <p>「実家力」を活かした二世帯住宅の提案</p> <p>親も子もそれぞれの世帯が独立してつづけること。家族や地域と交流しやすく、絆やつながりを築けること。都市に限られた敷地の中で、実家が持っている価値を上手に活かしながら、みんなの「心地いい」を高密度に詰込んだ二世帯住宅を提案。</p>
---	---	--	--	--	---	--	---	---	---